

週報



2016 年 年頭標語

創造主、天の父母様に似た、真の愛を実践する
天一国の真の主人になろう

2016 年 VISION

幸せな家庭 健康な教会
国家と世界に貢献する統一運動

2016 年 活動指針

1. 理想家庭と心情共同体形成
2. 神氏族メシヤ活動強化
3. 二世圏活性化
4. 社会貢献と救国救世基盤造成

世界平和統一家庭連合

FAMILY FEDERATION for WORLD PEACE and UNIFICATION

加賀家庭教会

KAGA FAMILY CHURCH

教会長：石垣 重広

み言 「アベルの責任」

16 神様が願う観点に立脚して生きた人がどれほどいるのでしょうか。ときには個人的に感情を害し、食口に対して鬱憤(うっぷん)を晴らしながら、言いたいことをすべて言う人を見かけます。兄弟関係において先に出てきた人が、カインの立場にいることを知らなければなりません。アベルになるためには、カインを救っておかなければならないのです。カインを救っておかなければ、アベルになれません。復帰された長子の立場になれないのです。アベルは、復帰された長子の立場です。結局は、長子の位置にいるのです。

そのようにするためには、世の中にいるカイン、すなわちサタン側にいるその兄を復帰しなければならないのです。復帰するのですが、無理やりたたいて復帰するのではなく、自然屈伏させなければなりません。新しい世界観を見せてあげ、新しい国家観、新しい生活観、新しい未来観、新しい人格観、新しい血統、新しい心情を見せてあげなければなりません。何か違う姿を見せてあげなければならないということです。

17 アベルは、カインのために死ぬことができ、生命をすべて捧げられる立場に立たなければなりません。そのようにしなければ、カインがアベルの前に絶対屈服しないのです。カインのために代わりに死ぬる立場に立ってこそ、帰っていくことができるのです。ですから、イエス様の教えの中に、「自分の命を救おうとするものは、それを失い、それを失うものは、保つのである」(ルカ17/33)というみ言があるのです。

このみ言は、アベルにも適用され、カインにも適用されます。アベルがカインを救おうとすれば、自分の命を惜しんではなりません。そのようにしなければ、カインを救うことができないのです。また、カインがアベルに従っていこうとすれば、死を覚悟しなければなりません。そのようにしなければ、従っていくことができないのです。

19 蕩滅の道は、誰が行くのでしょうか。カインが行くものではありません。アベルが行かなければなりません。涙を流すにしても、先に流さなければならず、おなががすくにしても、先にすかなければならず、悪口を浴びるにしても、先に浴びなければならず、むち打たれるにしても、先に打たれなければなりません。そのように蕩滅の道を行くのです。

一人の人が入ってきたとすれば、その人を導いていけるように責任をもたなければなりません。夜を徹してその人の過去を聞いてあげ、父のような立場で相談に乗ってあげ、涙を流してあげ、祈ってあげなければなりません。帰るときには、心配でその家の前まで連れていってあげ、また朝になれば心配になり、その家の前に行って待つては会う、このようなことができなければなりません。

結局は、誰よりも人を好きになる人間にならなければならないのです。カインが一番好きになる人にならなければなりません。そうしてこそ、その人が「私」の後ろにしっかりとついてくるのです。蕩滅の道についてくるのです。そのようにして蕩滅の道を行かなければなりません。

天聖經 (P1050~1051)